

図4. 既婚女性の人工妊娠中絶経験率

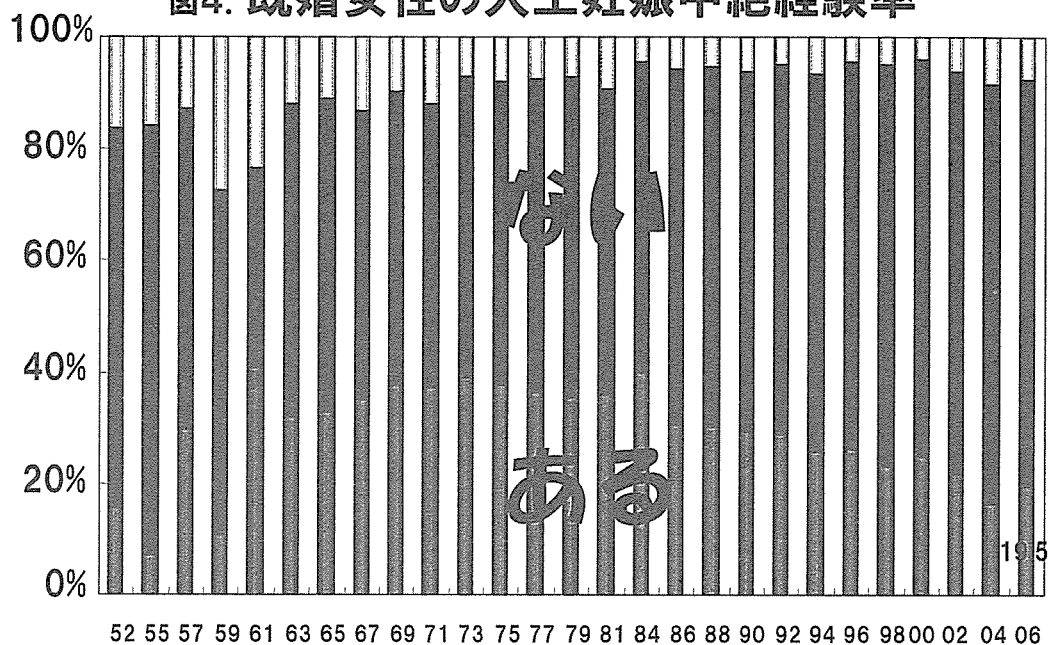


表2. 調査結果から試算したわが国における人工妊娠中絶件数(推計)

	2004年10月1日現在の女性人口(千人)	2005年10月1日現在の女性人口(千人)	過去の中絶経験 (%)	うち一年間の中絶経験率 (%)	過去一年間の経験率	2004年中絶数概算(件)	2005年中絶数概算(件)
16～19歳	3162	3124	0.0	0.0	0.0000	0	0
20～24歳	3566	3644	4.3	25.0	0.0106	37,936	38,766
25～29歳	4028	4034	6.9	28.6	0.0198	79,762	79,881
30～34歳	4742	4792	13.6	16.7	0.0227	107,773	108,909
35～39歳	4262	4549	18.4	15.4	0.0284	120,908	129,050
40～44歳	3954	3977	14.2	12.5	0.0177	69,982	70,389
45～49歳	3815	3838	28.1	10.3	0.0288	109,784	110,446
						526,146	537,441

### 第3回男女の生活と意識に関する調査

#### - 性行動と避妊に関する意識と実態について -

菅 睦雄（リプロ・ヘルス情報センター）

北村邦夫（（社）日本家族計画協会クリニック）

はじめに

厚生労働省の厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業として「全国の実態調査に基づいた人工妊娠中絶の減少に向けた包括的研究」の一環として「男女の生活と意識に関するアンケート調査」を行った。

本調査は、20歳未満の人工妊娠中絶と性感染症が過去に例をみないスピードで増加している現状と、また、性に関する事柄は生涯のテーマであり、これらの課題に立ち向かうためには、新たな視点での取り組みが必要とされる。その課題の現状と問題点をさぐることを目的とした。

全国都道府県の市区町村を単位として11地区に分類し150地点より無作為に抽出した満16歳から49歳までの3,000名を対象に調査票を配布し、長期不在、一時不在、転居、住居不明を除く2,426名を対象に回収し得た1,409名（回収率58.1%）のアンケート結果を集計し解析に供した。得られたアンケート調査の内容から、本報告書は「わが国における性行動と避妊に関する意識と実態」に関する項目を集計解析し、2002年に行われた第1回調査と2004年の第2回調査を踏まえながらその実態と変容を明らかにすべく以下に報告する。

## I. 調査対象の背景

### 1. 男女間の年齢分布

得られた有効回答者の内訳は男性636名、年齢は16歳から49歳で平均年齢 $34.3 \pm 9.1$ 歳、女性773名で男性同様に16歳から49歳で平均年齢 $34.2 \pm 9.3$ 歳であり、男性45.1%に対し女性54.9%の比であった。男女間に年齢の差は認められなかった。

尚、2004年の第2回調査では、男性675名 $34.0 \pm 9.5$ 歳、女性897名 $35.3 \pm 9.5$ 歳であり、ほぼ同じ年齢背景であった。

5歳階級別の年齢分布をみると以下の如くで、各年代間において男女比の有意差は認めなかった。

表 1. 調査対象の 5 歳階級別年齢分布：( ) 内は%表示。

	20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45 歳以上	総計
男性	56(8.8)	59(9.3)	83(13.1)	107(16.8)	117(18.4)	111(17.5)	103(16.2)	636(100)
女性	53(6.9)	94(12.2)	101(13.1)	132(17.1)	141(18.2)	113(14.6)	139(18.0)	773(100)
総計	109(7.7)	153(10.9)	184(13.1)	239(17.0)	258(18.3)	224(15.9)	242(17.2)	1,409(100)

この年齢分布を性行動の意識と実態について検討するにあたり、5 歳階級別でみると 7 区分となり、20%以下で細かくなり過ぎ、判断をゆがめられる危険性があると思われた。そこで、25 歳未満を性成熟期前半、25-34 歳を性成熟期、35-44 歳を性成熟期後半、45 歳以上を更年期と 4 区分にし検討をするすることにした。

また、下記の如くの世代分布として捉えても男女間の比も妥当なところではないかと考えた。

表 2. 世代別男女の構成

	25 歳未満	25-34 歳	35-44 歳	45 歳以上	総計
男 性	115(18.1)	190(29.2)	228(35.8)	103(16.2)	636(100)
女 性	147(19.0)	233(30.1)	254(32.9)	139(18.0)	773(100)
総 計	262(18.6)	423(30.0)	482(34.2)	242(17.2)	1,409(100)

## 2. 兄弟姉妹

対象者の兄弟姉妹の有無については、いないという一人っ子は男性で 41 名 (6.4%)、女性 53 名 (6.9%) であり、第 2 回調査では男性が 77 名 (11.2%) と有意差 ( $p < 0.05$ ) を認めていたが、今回の調査では同等の値であった。男女共に兄弟姉妹を有しているものが 90% を越えており、その平均人数は男性で平均  $1.7 \pm 0.9$  (1-7) 人、女性  $1.8 \pm 1.1$  (1-7) 人であり、両者間に有意差は認めなかった。

## 3. 職業

調査対象の職業は、男性では 68.2% が常勤職についており、非常勤職は僅か 6.0% であった。自営業は 11.0% であり、学生は 11.2% であるも 25 歳未満がそのうち 95.8% を占め、25 歳以上では僅か 3 名であった。世代区分でみると常勤職は 34-44 歳群で 80.3% と最も高く、45 歳以上では常勤職が 75.7% と減少し、自営業が 18.4% と上昇していた。

女性は常勤職が 32.3%、非常勤職 25.7%、主婦 23.0%、学生 8.8% であり、学生の総てが 25 歳未満群であった。世代区分でみると 25 歳未満群は学生に続いて常勤職が 32.0% と続いていたが、25-34 歳では常勤職が 39.9% と高くなり、非常勤職と主婦が 25.3% と続いていた。35-44 歳群では常勤職が 30.7% に減少し、主婦が 29.5% と上昇しており、45 歳以上になると非常勤職が 35.3% と上昇していた。

表 3-1. 調査対象の世代別職業分布（男性）

	世代	常勤職	非常勤職	自営業	学生	主婦	無職	無回答	総計
男性	25歳未満	34(29.6)	8(7.0)	1(0.9)	68(59.1)		4(3.5)		115
	25-34歳	139(73.2)	18(9.5)	19(10.0)	3(1.6)		9(4.7)	2(1.1)	190
	35-44歳	183(80.3)	9(3.9)	31(13.6)		1(0.4)	2(0.9)	2(0.9)	228
	45歳以上	78(75.7)	3(2.9)	19(18.4)			3(2.9)		103
男性計		434(68.2)	38(6.0)	70(11.0)	71(11.2)	1(0.2)	18(2.8)	4(0.6)	636

表 3-2. 調査対象の世代別職業分布（女性）

	世代	常勤職	非常勤職	自営業	学生	主婦	無職	無回答	総計
女性	25歳未満	47(32.0)	19(12.9)	2(1.4)	68(46.3)	5(3.4)	3(2.0)	3(2.0)	147
	25-34歳	93(39.9)	59(25.3)	7(3.0)		59(25.3)	11(4.7)	4(1.7)	233
	35-44歳	78(30.7)	72(28.3)	18(7.1)		75(29.5)	9(3.5)	2(0.8)	254
	45歳以上	32(23.0)	49(35.3)	14(10.1)		39(28.1)	2(1.4)	3(2.2)	139
女性計		250(32.3)	199(25.7)	41(5.3)	68(8.8)	178(23.0)	25(3.2)	12(1.6)	773
総計		684(48.5)	237(16.8)	111(7.9)	139(9.9)	179(12.7)	43(3.1)	16(1.1)	1409

#### 4. 婚姻関係

婚姻関係についてみると、男性では未婚 41.5%、初婚 51.6%、再婚 2.8%、離婚 2.8%、死別 1名 0.2%で不明が 1.1%であった。女性は未婚 34.4%、初婚 56.0%、再婚 2.1%、離婚 6.0%、死別 1名 0.4%で不明が 1.2%であり、男性に比べ未婚が有意( $p<0.01$ )に少なく離婚が有意( $p<0.01$ )に多かった。

これを世代別にみると、男性は25-34歳で未婚 52.1%に対し初婚 44.2%となっているが、女性の同世代間では 38.6%に対し初婚が 55.4%と婚姻者が男性に比べ多く逆転していた。また、離婚者は男性の 1.1%に対し女性は 3.9%と高値を示していた。さらに、35-44歳、45歳以上の女性の離婚者は 8.7%、9.4%と高値を示し、35-44歳の男性に比べ多く有意差( $p<0.05$ )を認めた。

以下未既婚で検討を加えるにあたり、未婚は未婚者のみとし、既婚は初婚者と再婚者を既婚群として検討した。なお、再婚は単身者として捉えられるが性意識や行動などについて検討する場合には、未婚者としては異なるところが多いため既婚群に含めず除いた。

未婚男性は 264 名で 16-49 歳、平均年齢  $28.1 \pm 8.7$  歳、既婚男性 346 名 20-49 歳、平均  $38.7 \pm 6.8$  歳であり、未婚女性は 266 名 16-49 歳、平均  $26.2 \pm 7.8$  歳、既婚女性 449 名、19-49 歳、 $38.4 \pm 7.0$  歳であった。未婚男性は未婚女性に比べ平均年齢は高く有意差( $p<0.01$ )を認めた。

表 4. 世代別婚姻関係の構成

	世代	未婚	初婚	再婚	離婚	死別	無回答	総計
男性	25歳未満	104(90.4)	10(8.7)				1(0.9)	115
	25-34歳	99(52.1)	84(44.2)	3(1.6)	2(1.1)		2(1.1)	190
	35-44歳	46(20.2)	163(71.5)	8(3.5)	7(3.1)	1(0.4)	3(1.3)	228
	45歳以上	15(14.6)	71(68.9)	7(6.8)	9(8.7)		1(1.0)	103
男性計		264(41.5)	328(51.6)	18(2.8)	18(2.8)	1(0.2)	7(1.1)	636
女性	25歳未満	136(92.5)	9(6.1)		2(1.4)			147
	25-34歳	90(38.6)	129(55.4)	2(0.9)	9(3.9)		3(1.3)	233
	35-44歳	31(12.2)	186(73.2)	10(3.9)	22(8.7)	2(0.8)	3(1.2)	254
	45歳以上	9(6.5)	109(78.4)	4(2.9)	13(9.4)	1(0.7)	3(2.2)	139
女性計		266(34.4)	433(56.0)	16(2.1)	46(6.0)	3(0.4)	9(1.2)	773
総計		530(37.6)	761(54.0)	34(2.4)	64(4.5)	4(0.3)	16(1.1)	1409

職業と姻戚関係の構成についてみると、男性は未婚者で 49.2%が常勤職と半数を占めており、次いで学生が 26.9%と続いていた。また、女性では同様に未婚者は常勤職が 48.9%、学生が 25.2%とほぼ男性と同じであった。婚姻すると男性は初婚、再婚、離婚、死別であっても常勤職に付くものが 70%以上を占め、次いで自営業が多かった。

女性は主婦となるのが初婚で 39.3%と多くなるが、離婚し再婚者では非常勤職が 43.8%と増え、離婚での単身者は常勤職および非常勤職が 80.4%と高値を占めていた。

表 5-1. 男性の婚姻形態と職業

性別婚姻関係	常勤職	非常勤	自営業	学生	主婦	無職	無回答	総計	
男性	未婚	130(49.2)	29(11.0)	16(6.1)	71(26.9)		17(6.4)	1(0.4)	264
	初婚	273(83.2)	6(1.8)	48(14.6)		1(0.3)			328
	再婚	13(72.2)		4(22.2)			1(5.6)		18
	離婚	13(72.2)	3(16.7)	2(11.1)					18
	死別	1(100)							1
	無回答	4(57.1)						3(42.9)	7
男性計		434(68.2)	38(6.0)	70(11.0)	71(11.0)	1(0.2)	18(2.8)	4(0.6)	636
総計		684(48.5)	237(16.8)	111(7.9)	139(9.9)	179(12.7)	43(3.1)	16(1.1)	1409

表 5-2. 女性の婚姻形態と職業

性別婚姻関係		常勤職	非常勤	自営業	学生	主婦	無職	無回答	総計
女性	未婚	130(48.9)	40(15.0)	7(2.6)	67(25.2)		18(6.8)	4(1.5)	266
	初婚	96(22.2)	133(30.7)	28(6.5)		170(39.3)	3(0.7)	3(0.7)	433
	再婚	2(12.2)	7(43.8)	1(6.3)		6(37.5)			16
	離婚	19(41.3)	18(39.1)	3(6.5)	1(2.2)	1(2.2)	4(8.7)		46
	死別	2(66.7)		1(33.3)					3
	無回答	1(11.1)	1(11.1)	1(11.1)		1(11.1)		5(55.6)	9
女性計		250(32.3)	199(25.7)	41(5.3)	68(8.8)	178(23.0)	25(3.2)	12(1.6)	773
総計		684(48.5)	237(16.8)	111(7.9)	139(9.9)	179(12.7)	43(3.1)	16(1.1)	1409

### 5. 子どもの数

調査対象者の子どもを保有する数についてみると、男性の子ども保有率が 48.9%、女性は 58.1%であり後者が有意(p<0.01)に高値を示していた。未婚者の子ども保有率は男性で 1.1%、女性 2.6%であり、結婚経験者で子どもを保有しているのが、有効回答のみでみると男性 364 名中 308 名 (84.6%)、女性 495 名中 441 名 (89.1%) と女性に高い傾向が認められた。

表 6. 婚姻形態と子どもの有無

婚姻関係と子どもの有無		有	無	無回答	総計
男性	未婚	3(1.1)	251(95.1)	10(3.8)	264
	初婚	278(84.8)	49(14.9)	1(0.3)	328
	再婚	17(94.4)	1(5.6)		18
	離婚	13(72.2)	5(27.8)		18
	死別		1(100)		1
	無回答		1(14.3)	6(85.7)	7
男性計		311(48.9)	308(48.4)	17(2.7)	636
女性	未婚	7(2.6)	243(91.4)	16(6.0)	266
	初婚	380(87.8)	50(11.5)	3(0.7)	433
	再婚	15(93.8)	1(6.3)		16
	離婚	43(93.5)	3(6.5)		46
	死別	3(100)			3
	無回答	1(11.1)	1(11.1)	7(77.8)	9
女性計		449(58.1)	298(38.6)	26(3.4)	773
総計		760(53.9)	606(43.0)	43(3.1)	1,409

子どもの数についてみると、男性 308 名で平均  $2.07 \pm 0.79$  (1-5) 人であり、女性は 440 名平均  $2.03 \pm 0.76$  (1-6) 人であった。男性の未婚者で子どもを保有するもの 3 名いたが子ども 1 人が 1 名 (32 歳)、3 人が 2 名 (33、37 歳) であった。女性の 7 名では 1 人 3 名 (37、38、48 歳)、2 人 4 名 (38、41、47、48 歳) であった。

以上のような背景を持つ男性 636 名、女性 773 名、計 1,409 名から得られた情報より、わが国の現状と実態を表しているものと考え「わが国における性行動と避妊に関する意識と実態」について検討を加えるのに問題はないと考え以下に報告する。

## 調査対象の背景の小括

### 1. 男女間の年齢分布

第 2 回までは 5 歳階級の 8 区分で集計・解析したが、対象者数が少なくなり 25 歳未満 (性成熟期前半) 群 19%、25-34 歳 (性成熟期) 群 30%、35-44 歳 (性成熟期後半) 群 34%、45 歳以上 (更年期) 群 17% の 4 群で比較解析することとした。

### 2. 兄弟姉妹関係

調査対象者の兄弟姉妹関係のあるものは、男性で 1.7 人、女性 1.8 人と男女間において有意差は認めなかった。

### 3. 職業

男性では常勤職についているものが 70% 弱で、自営業と学生が各 10% 強であり、女性は常勤職 30% 強、非常勤職 25%、主婦が 23% であり、わが国における社会労働環境に一致するように思われた。

### 4. 婚姻関係

未婚、初婚、再婚、離婚、死別と 4 区分でみているが、未婚は全体で 38%、男性 42%、女性 34%、初婚 54%、男性 52%、女性 56%、再婚 2%、男性 3%、女性 2%、死別 0.3%、男性 0.2%、女性 0.4% であり、婚姻関係でみると未婚と既婚 (再婚を含む) で検討するのが妥当と思われた。尚、離婚者は 5%、男性 3% に対し女性 6% と女性に多く有意差 ( $p < 0.01$ ) を認めた。

これを職業別についてみると、既婚男性の常勤者は 83% を占め、既婚女性は主婦が 39% であり、非常勤職者 31% と男女間に既婚者における職種の違いが大きいことが示されていた。

### 5. 子どもの数

調査対象者の子どもの保有人数をみると男女ともに平均 2 人であり、未婚男性では 1%、未婚女性は 3% がシングルマザーであった。

第 3 回男女の生活と意識に関する調査で、特に、性行動と避妊に関する意識の実態について、以上のような背景から日本の社会における実態に沿った妥当なものとして集計解析し検討を進めることとした。

## II. 性意識について

### 1. 異性とのかかわり方

男女の関係性についての問いとして、「異性と付き合う」という言葉に対する考えであるが、男女ともに多かったのが「一緒の時間・人生を生きるものとしての関係」と捉えるのであり、男性 252 名 (39.6%)、女性 305 名 (39.5%) であった。次に多かったのが「ひとりにしぼられた特定の相手との関係」で男性 203 名 (35.0%)、女性 277 名 (35.8%) であった。このことは男女とも「異性との付き合い」は人生を生きるものとしての関係で、一人に絞られた特定の異性関係と捉えているようであった。

表 7. 世代別異性との関わりに対する認識

	世代	セックスをする関係	一緒の時間・人生を生きるものとしての関係	一人に絞られた特定の関係	結婚など将来設計を描く相手としての関係	一生に一度合えるかえがない関係	この中 にない	無回答	総計
男性	25 歳未満	3(2.6)	53(46.1)	31(27.0)	3(2.6)	14(12.2)	11(9.6)		115
	25-34 歳	11(5.8)	75(39.5)	63(33.2)	19(10.0)	10(5.3)	11(5.8)	1(0.5)	190
	35-44 歳	15(6.6)	83(36.4)	73(32.0)	23(10.1)	7(3.1)	23(10.1)	4(1.8)	228
	45 歳以上	3(2.9)	41(39.8)	36(35.0)	6(5.8)	6(5.8)	10(9.7)	1(1.0)	103
男性計		32(5.0)	252(39.6)	203(35.0)	51(8.0)	37(5.8)	55(8.6)	6(0.9)	636
女性	25 歳未満		64(43.5)	45(30.6)	11(7.5)	12(8.2)	14(9.5)	1(0.7)	147
	25-34 歳	12(5.2)	82(35.2)	86(36.9)	23(9.9)	10(4.3)	18(7.7)	2(0.9)	233
	35-44 歳	4(1.6)	102(40.2)	101(39.8)	15(5.9)	7(2.8)	21(8.3)	4(1.6)	254
	45 歳以上	4(2.9)	57(41.0)	45(32.4)	10(7.2)	4(2.9)	19(13.7)		139
女性計		20(2.6)	305(39.5)	277(35.8)	59(7.6)	33(4.3)	72(9.3)	7(0.9)	773
総計		52(3.7)	557(39.5)	480(34.1)	110(7.8)	70(5.0)	127(9.0)	13(0.9)	1409

これを世代別でみると、男性は各世代とも「一緒の時間・人生を生きるものとしての関係」が最も高く、次いで「ひとりにしぼられた特定の相手との関係」の順であったが、女性は 25-34 歳の性成熟期の世代で「ひとりにしぼられた特定の相手との関係」が僅かに高く逆転していた。また、「セックスをする関係」と答えたものが男性全体で 5.0% あり、25-34 歳 5.8%、35-44 歳 6.6% と高値を示していたが、45 歳以上になると 2.9% と減少していた。女性は全体では 2.6% であったが、25-34 歳で 5.2% と男性同様の高値を示し、35-44 歳 1.6%、45 歳以上 2.9% と低値であった。

また、未既婚とでみると男女共に未婚者では「一緒の時間・人生を生きるものとしての関係」が最も高く、初婚者では「ひとりにしぼられた特定の相手との関係」の方が高値を



示していた。離婚者の男性では「セックスをする関係」と答えたものが 16.7%と女性の 4.3%に比べ高かった。

表 8. 婚姻形態別異性との関わりに対する認識

	姻 戚 関係	セック スをす る関係	一 緒 の 時 間・人生を 生きるもの としての関 係	一人に絞ら れた特定の 関係	結婚など 将来設計 を描く相 手として の関係	一生に一 度合える かけがえ のない関 係	こ の 中 にない	無回答	総計
男性	未婚	8(3.0)	120(45.5)	73(27.7)	19(7.2)	21(8.0)	22(8.3)	1(0.4)	264
	初婚	20(6.1)	114(34.8)	122(37.2)	26(7.9)	10(3.0)	31(9.5)	5(1.5)	328
	再婚		8(44.4)	3(16.7)	3(16.7)	3(16.7)	1(5.6)		18
	離婚	3(16.7)	7(38.9)	5(27.8)	2(11.1)	(5.6)1			18
	死別						1(100)		1
女性	未婚	3(1.1)	118(44.4)	78(29.3)	22(8.3)	14(5.3)	29(10.9)	2(0.8)	266
	初婚	15(3.5)	152(35.1)	182(42.0)	29(6.7)	12(2.8)	38(8.8)	5(1.2)	433
	再婚		5(31.3)	6(37.5)	2(12.5)	2(12.5)	1(6.3)		16
	離婚	2(4.3)	23(50.0)	9(19.6)	6(13.0)	4(8.7)	2(4.3)		46
	死別		2(66.7)				1(33.3)		3

そのような考えの中で異性と付き合った経験のあるものは、男性では 545 名 (85.7%) で前回調査の 74.1%に比べ有意(p<0.001)に高値を示し、女性 697 名 (90.2%) 前回調査の 78.5%と比べ有意差を認めた。異性との付き合い開始年齢は男性 17.4±3.9 歳 (n=489)、女性 17.6±3.3 歳(n=607)であった。言い換えるなら、高校生の頃が異性としてのかかわりを持つ重要な時期ともいえよう。その関係が現在も継続しているのは、男性で 54 人 (9.9%)、女性で 92 人 (13.2%) と 10%前後ほどであり、異性関係の終わった年齢は男性 18.1±3.9 歳、女性 18.6±4.2 歳であった。

また婚姻関係でみると、婚姻歴のあるものは総てが異性との付き合いがあり、未婚者で異性との関係なしが男性 32.2% (85/264)、女性 24.8% (66/266) と男性に高い傾向がみられた。

## 2. 性情報 (避妊法の情報について)

性情報の入手先として避妊方法について、男性は友人 31.3%、教師・学校の授業 24.7%、マスメディア 22.2%と続いていたが、女性では教師・学校の授業 35.6%、友人 22.4%、マスメディア 17.3%の順であり、世代別にみると男性では 35 歳未満までは教師・学校の授業が 48.7%、29.5%と情報源が高く、35 歳以上になると友人が 36.0%、37.9%と逆転して高値を示していた。また、女性は 45 歳未満まで教師・学校の授業が 59.9%、39.5%、26.8%と高値を示し、45 歳以上で友人が 28.1%と逆転していた。

女性は学校教育の一環のなかに性教育が積極的に組み入れているために高い値を示しており、実際に学生による回答をみると男性では 50.7%、女性 66.2%であり、次いで男性は友人が 21.1%、女性はマスコミ 10.0%と学内で避妊の情報を大半のものが入手していることが明らかとなった。

表 9. 避妊法の情報源

	世代	教師・学校の授業	医師など医療関係者	親	兄弟	親以外の大人	友人	マスメディア	インターネット	意識せず自然に	学んだことはない	無回答	総計
男性	25歳未満	48.7	0.0	0.0	0.9	1.7	21.7	8.7	1.7	12.2	1.7	2.6	115
	25-34歳	29.5	0.0	0.5	0.0	0.0	27.9	19.5	0.0	15.3	6.3	1.1	190
	35-44歳	14.0	0.0	0.4	0.0	2.2	36.0	27.2	0.0	16.2	1.3	2.6	228
	45歳以上	12.6	0.0	0.0	0.0	1.9	37.9	31.1	0.0	12.6	1.9	1.9	103
男性計		24.7	0.0	0.3	0.2	1.4	31.3	22.2	0.3	14.6	3.0	2.0	636
女性	25歳未満	59.9	2.0	0.0	0.0	0.0	15.0	8.8	0.0	10.9	2.7	0.7	147
	25-34歳	39.5	1.7	2.1	0.4	0.9	21.5	12.9	0.0	13.7	3.9	3.4	233
	35-44歳	26.8	0.8	2.0	0.0	0.4	24.4	23.2	0.4	14.2	4.3	3.5	254
	45歳以上	19.4	2.2	0.7	0.0	0.7	28.1	23.0	0.0	15.8	7.2	2.9	139
女性計		35.6	1.6	1.4	0.1	0.5	22.4	17.3	0.1	13.7	4.4	2.8	773
総計		30.7	0.9	0.9	0.1	0.9	26.4	19.5	0.2	14.1	3.8	2.5	1409

### 3. 中学生のセックスに対する認識

中学生がセックスをすることについての考えを聞いているが、「妊娠や性感染症について、自分で責任の取れる年齢や立場になってからすべき」と考えるのが男性で 366名(57.5%)、女性 514名(66.5%)で女性が有意(p<0.001)に高値を示していた。この考えは男女とも高齢になるにつれ高くなっているものの、女性では 35-44歳が 72.0%と最も高かった。逆に、「セックスをするかしないかは、中学生であっても個人の自由である」という考えを持つのが男性 112名(17.6%)、女性 89名(11.5%)と男性に多く有意差(p<0.01)を認めた。この考えは若年者に多くみられ男性の 25歳未満では 38.3%であった。

このことは性成熟期後半の男女は、「自分で責任が取れる立場」になればセックスをしてもよいという考えで、25歳未満の世代では「セックスするか否かは個人の自由」という考

えを持つのも多く、セックスを通して抱え込む問題に対する責任性の欠落が窺われ始めていると思われる。

表 10. 中学生のセックスに対する認識

	世代	自分で責任の取れる年齢や立場	しない方が良い	時代の流れ	個人の自由	無回答	総計
男性	25歳未満	44.3	8.7	6.1	38.3	2.6	115
	25-34歳	51.1	17.4	10.5	19.5	1.6	190
	35-44歳	66.2	15.4	5.3	9.6	3.5	228
	45歳以上	65.0	19.4	4.9	8.7	1.9	103
男性計		57.5	15.4	6.9	17.6	2.5	636
女性	25歳未満	55.8	13.6	4.1	25.9	0.7	147
	25-34歳	65.2	13.7	3.4	15.5	2.1	233
	35-44歳	72.0	15.4	2.4	5.5	4.7	254
	45歳以上	69.8	24.5	2.2	0.7	2.9	139
女性計		66.5	16.2	3.0	11.5	2.8	773
総計		62.5	15.8	4.8	14.3	2.7	1409

#### 4. セックスに対する関心度

次に、セックスに対する関心度について、「とても関心がある」は男性で 151 名 (23.7%)、女性 34 名(4.4%)であり男女間に有意差(p<0.001)を認めた。「ある程度関心がある」が男性 393 名 (61.8%)、女性 391 名 (50.6%) であり、「とても」を合わせた「関心がある」ものは、男性で 85.5%、女性 55.0%で関心を持つのは男性が有意に高いことが示された。年代別での「とても関心がある」は男性が 25-34 歳の性成熟期が 26.8%と高くなっているが、45 歳以上でも 25.2%と高い数値を示していた。

表 11-1. セックスに対する関心度 (男性)

	世代	とても関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	嫌悪さえしている	無回答	総計
男性	25歳未満	21(18.3)	72(62.6)	19(16.5)		1(0.9)	2(1.7)	115
	25-34歳	51(26.8)	116(61.1)	17(8.9)	2(1.1)	1(0.5)	3(1.6)	190
	35-44歳	53(23.2)	146(64.0)	22(9.6)			7(3.1)	228
	45歳以上	26(25.2)	59(57.3)	16(15.5)			2(1.9)	103
男性計		151(23.7)	393(61.8)	74(11.6)	2(0.3)	2(0.3)	14(2.2)	636

女性の「とても関心がある」は同様に 25-34 歳の性成熟期が 7.3%と高いものの 1/4 ほどで、年齢と共に低下し 45 歳以上では 1.4%に過ぎなかった。むしろ「あまり関心がない」が男性の 11.6%に対し、35.7%と有意(p<0.001)に高値を示していた。同様に「全く関心がない」も女性が高値で有意差(p<0.001)を認めた。性嫌悪症ともいえる「嫌悪さえている」は男女共に 0.3%、0.4%にみられ、しかも 35 歳未満であった。

表 11-2. セックスに対する関心度 (女性)

	世代	とても関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	嫌悪さえている	無回答	総計
女性	25 歳未満	10(6.8)	70(47.6)	47(32.0)	14(9.5)	2(1.4)	4(2.7)	147
	25-34 歳	17(7.3)	128(54.9)	70(30.0)	4(1.7)	1(0.4)	13(5.6)	233
	35-44 歳	5(2.0)	119(46.9)	105(41.3)	8(3.1)		17(6.7)	254
	45 歳以上	2(1.4)	74(53.2)	54(38.8)	5(3.6)		4(2.9)	139
女性計		34(4.4)	391(50.6)	276(35.7)	31(4.0)	3(0.4)	38(4.9)	773
総計		185(13.1)	784(55.6)	350(24.8)	33(2.3)	5(0.4)	52(3.7)	1409

これを姻戚関係でみると、男性は未婚者よりも結婚経験者の方が性に対する関心を抱くものが多かったが、女性は未婚者の方が関心を持ち、「あまり関心がない」については未婚者より初婚者の方が有意(p<0.05)に高値を示していた。また、「全く関心がない」は未婚女性が 7.5%であり、既婚女性や未婚男性に比べ有意(p<0.001)に高値を示していた。

表 11-3. 婚姻形態別セックスに対する関心度

	婚姻関係	とても関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	嫌悪さえている	無回答	総計
男性	未婚	58(22.0)	157(59.5)	39(14.8)	2(0.8)	2(0.8)	6(2.3)	264
	初婚	80(24.4)	211(64.3)	30(9.1)			7(2.1)	328
	再婚	5(27.8)	10(55.6)	3(16.7)				18
	離婚	7(38.9)	9(50.0)	2(11.1)				18
女性	未婚	12(4.5)	142(53.4)	81(30.5)	20(7.5)	1(0.4)	10(3.8)	266
	初婚	17(3.9)	213(49.2)	168(38.8)	9(2.1)	1(0.2)	25(5.8)	433
	再婚		8(50.0)	8(50.0)				16
	離婚	3(6.5)	25(54.3)	14(30.4)	2(4.3)	1(2.2)	1(2.2)	46

## 5. 異性と関わることの面倒さ

異性と関わることの面倒さについては、「とても面倒である」が男性で 12 名 (1.9%)、女性 32 名(4.1%)、「ある程度面倒である」男性 176 名 (27.7%)、女性 249 名(32.2%)と後者に高いものの有意差は認められなかった。男性においては年代間の格差はあまり認められないものの女性においては「面倒である」と考えるものが、年齢が高くなるにつれて上昇していることが示されていた。逆に、「全く面倒ではない」と考えるものが男性で 152 名 (23.9%)、女性 147 名 (19.0%)と有意( $p<0.05$ )に女性が少ないが、25 歳未満群においてのみ男性 26.1%、女性 29.3%と有意差はないものの女性が高値を示していた。

表 12-1. 世代別異性と関わることの面倒さ

	世代	とても面倒	ある程度面倒	あまり面倒でない	全く面倒でない	異性に関することを嫌悪している	無回答	総計
男性	25 歳未満	2(1.7)	35(30.4)	46(40.0)	30(26.1)		2(1.7)	115
	25-34 歳	4(2.1)	49(25.8)	85(44.7)	49(25.8)	2(1.1)	1(0.5)	190
	35-44 歳	3(1.3)	56(24.6)	111(48.7)	52(22.8)		6(2.6)	228
	45 歳以上	3(2.9)	36(35.0)	42(40.8)	21(20.4)		1(1.0)	103
男性計		12(1.9)	176(27.7)	284(44.7)	152(23.9)	2(0.3)	10(1.6)	636
女性	25 歳未満	8(5.4)	35(23.8)	58(39.5)	43(29.3)		3(2.0)	147
	25-34 歳	4(1.7)	67(28.8)	98(42.1)	54(23.2)	1(0.4)	9(3.9)	233
	35-44 歳	11(4.3)	89(35.0)	96(37.8)	39(15.4)	1(0.4)	18(7.1)	254
	45 歳以上	9(6.5)	58(41.7)	55(39.6)	11(7.9)	2(1.4)	4(2.9)	139
女性計		32(4.1)	249(32.2)	307(39.7)	147(19.0)	4(0.5)	34(4.4)	773
総計		44(3.1)	425(30.2)	591(41.9)	299(21.2)	6(0.4)	44(3.1)	1409

姻戚関係でみると、男性の未婚者と初婚者の間で「とても面倒」「ある程度面倒」をあわせ未婚者の方が面倒と答えるものが多く有意差( $p<0.05$ )を認めた。女性では「全く面倒でない」において未婚者の方が既婚者に比べ有意( $p<0.05$ )に高値を示していた。

このことは結婚することにより男性は異性とのかわりに「面倒」と考えるものが減少し、女性は「面倒」と捉えるようになってきているものが増えているように思われた。

表 12-2. 婚姻形態別異性に関わることの面倒さ（男性）

	姻戚関係	とても面倒	ある程度面倒	あまり面倒でない	全く面倒でない	異性に関することを嫌悪している	無回答	総計
男性	未婚	8(3.0)	86(32.6)	105(39.8)	58(22.0)	2(0.8)	5(1.9)	264
	初婚	3(0.9)	82(25.0)	155(47.3)	84(25.6)		4(1.2)	328
	再婚		5(27.8)	8(44.4)	5(27.8)			18
	離婚	1(5.6)	1(5.6)	11(61.1)	5(27.8)			18

表 12-3. 婚姻形態別異性に関わることの面倒さ（女性）

	姻戚関係	とても面倒	ある程度面倒	あまり面倒でない	全く面倒でない	異性に関することを嫌悪している	無回答	総計
女性	未婚	12(4.5)	77(28.9)	105(39.5)	64(24.1)	1(0.4)	7(2.6)	266
	初婚	15(3.5)	145(33.5)	177(40.9)	70(16.2)	2(0.5)	24(5.5)	433
	再婚	1(6.3)	6(37.5)	8(50.0)	1(6.3)			16
	離婚	3(6.5)	19(41.3)	13(28.3)	9(19.6)	1(2.2)	1(2.2)	46

## 6. コンドーム使用促進について

コンドームに対する認識を「性感染症予防のためにも重要であるが、どのようにすれば利用が増えるか？」という問いに対しての考えを聞いている。それに対して男性は「コンドームの有効性を周知する」という考えが 240 名(37.7%)と最も高く、女性も同様に 342 名(44.2%)と半数近くを占めており、次が男性で「いろいろな場所で入手できる」が 193 名(30.3%)とあげており、女性 180 名(23.3%)と少なかった。3 番目に、男性は「使いやすい商品を開発する」94 名(14.8%)、女性 83 名(10.7%)であった。

世代別では「コンドームの有効性を周知する」は世代が高くなるにつれ上昇しており、逆に「安くする」は若い世代で高値を示していた。

コンドームの使用については、男女間、年代間において若干のプライオリティの違いはあるものの「STD やエイズ予防の有効性」を認知させ、「手軽に入手」でき「使いやすく」「価格を安く」という考えが周知されてきているようである。

表 13. コンドーム使用促進に対する考え

	世代	安くする	入手しやすくする	使いやすい商品の開発	有効性を周知する	その他	無回答	総計
男性	25歳未満	18(15.7)	39(33.9)	11(9.6)	34(29.6)	8(7.0)	5(4.3)	115
	25-34歳	19(10.0)	57(30.0)	33(17.4)	65(34.2)	10(5.3)	6(3.2)	190
	35-44歳	12(5.3)	64(28.1)	40(17.5)	92(40.4)	10(4.4)	10(4.4)	228
	45歳以上	5(4.9)	33(32.0)	10(9.7)	49(47.6)	1(1.0)	5(4.9)	103
男性計		54(8.5)	193(30.3)	94(14.8)	240(37.7)	29(4.6)	26(4.1)	636
女性	25歳未満	25(17.0)	42(28.6)	18(12.2)	40(27.2)	15(10.2)	7(4.8)	147
	25-34歳	24(10.3)	59(25.3)	33(14.2)	88(37.8)	17(7.3)	12(5.2)	233
	35-44歳	15(5.9)	57(22.4)	17(6.7)	135(53.1)	15(5.9)	15(5.9)	254
	45歳以上	10(7.2)	22(15.8)	15(10.8)	79(56.8)	4(2.9)	9(6.5)	139
女性計		74(9.6)	180(23.3)	83(10.7)	342(44.2)	51(6.6)	43(5.6)	773
総計		128(9.1)	373(26.5)	177(12.6)	582(41.3)	80(5.7)	69(4.9)	1409

## 7. 低用量ピルの認識

低用量ピルに対する認識度については、男性で「よく知っている」51名(8.0%)、「ある程度知っている」352名(55.3%)と5割強のものは知っているが、女性は「よく」が98名(11.0%)、ある知度・・・」483名(58.6%)、両者を含め「ピル認知度」とすると男性63.3%、女性69.6%と後者が有意( $p<0.05$ )に高値を示していた。

世代別に「ピル認知度」をみると男性は25歳未満の61.7%から45歳以上では66.0%と漸次上昇していた。女性では25歳未満の66.7%から35-44歳で72.4%とピークを示し45歳以上では67.6%に減少していた。

これを2004年の第2回調査と比べると男性の認知度が55.4%から63.3%に上昇しており、有意差( $p<0.05$ )を認めた。女性では65.3%から69.6%と4.3ポイント上昇するも有意差は認めなかった。

表 14-1. 低用量ピルの認識 (男性)

	世代	良く知っている	ある程度知っている	あまり知らない	全く知らない	無回答	総計
男性	25歳未満	13(11.3)	58(50.4)	34(29.6)	7(6.1)	3(2.6)	115
	25-34歳	17(8.9)	101(53.2)	61(32.1)	11(5.8)		190
	35-44歳	15(6.6)	131(57.5)	66(28.9)	9(3.9)	7(3.1)	228
	45歳以上	6(5.8)	62(60.2)	27(26.2)	7(6.8)	1(1.0)	103
男性計		51(8.0)	352(55.3)	188(29.6)	34(5.3)	11(1.7)	636

表 14-2. 低用量ピルの認識（女性）

	世代	良く知っている	ある程度知っている	あまり知らない	全く知らない	無回答	総計
女性	25歳未満	20(13.6)	78(53.1)	42(28.6)	7(4.8)		147
	25-34歳	22(9.4)	140(60.1)	58(24.9)	9(3.9)	4(1.7)	233
	35-44歳	28(11.0)	156(61.4)	52(20.5)	5(2.0)	13(5.1)	254
	45歳以上	15(10.8)	79(56.8)	35(25.2)	7(5.0)	3(2.2)	139
女性計		85(11.0)	453(58.6)	187(24.2)	28(3.6)	20(2.6)	773
総計		136(9.7)	805(57.1)	375(26.6)	62(4.4)	31(2.2)	1409

未既婚別では未婚男性 60.2%、既婚男性（含む再婚）64.5%と後者が高く、未婚女性 76.5%、既婚女性（含む再婚）69.5%と未婚女性が高値を示していたが有意差は認めなかった。

#### 8. 緊急避妊ピルについて

緊急避妊ピルについて聞いたことがあるか否かについて、「聞いたことがある」が男性は 132 名（20.8%）、女性 211 名（27.3%）であり、両者間に有意差(p<0.01)を認めた。世代別では男女共に 25 歳未満の認知度がもっとも高く、世代が高くなるにつれ低下していた。

特に、女性では 25 歳未満 42.9%と最も高く、次いで、25-34 歳 33.9%であり、以降の世代では 16.9%、18.7%と 2 割を下回っていた。

また、未既婚別でみると、聞いたことがある未婚男性は 66 名（25.0%）、既婚男性 60 名（18.3%）と後者が低く、女性では未婚 93 名（35.0%）、既婚 101 名（23.6%）と男性同様未婚者の方に認知率が高く両者間に有意差(p<0.01)を認めた。

表 15. 緊急避妊ピルに関する認識

F1	世代	ある	ない	無回答	総計
男性	25歳未満	32(27.8)	79(68.7)	4(3.5)	115
	25-34歳	45(23.7)	143(75.3)	2(1.1)	190
	35-44歳	42(18.4)	174(76.3)	12(5.3)	228
	45歳以上	13(12.6)	88(85.4)	2(1.9)	103
男性計		132(20.8)	484(76.1)	20(3.1)	636
女性	25歳未満	63(42.9)	81(55.1)	3(2.0)	147
	25-34歳	79(33.9)	147(63.1)	7(3.0)	233
	35-44歳	43(16.9)	197(77.6)	14(5.5)	254
	45歳以上	26(18.7)	108(77.7)	5(3.6)	139
女性計		211(27.3)	533(69.0)	29(3.8)	773
総計		343(24.3)	1,017(72.2)	49(3.5)	1409



実際に緊急避妊ピルを使用したか否かについてみると、男性は使用させたことのあるものが7名(5.3%)、女性の経験者は22名(10.4%)と女性が高値を示していたが両者間には有意差を認めなかった。第2回の前回調査と比べると男性は9名から7名に減少し、女性は16名(7.6%)から22名と増加しているものの有意差は認めなかった。

世代別では25歳未満の男性は1回1名、2回1名、3回以上1名の計3名であり、女性は1回が7名と多く、3回以上1名であり、25-34歳男性は1回、2回が各1名に対し女性は1回7名、2回1名であり、それ以降の世代は男性で2名、女性6名と同様に女性の方が高かった。

前回の調査と比較すると男性は1名から3名に、女性1名から8名と増加しているものの有意な差ではなかった。また、25歳未満女性、45歳以上と25-34歳の使用者が12.7%、1.5%、10.2%と高値であったが前回調査とほぼ同じ値であった。

表 16-1. 世代別緊急避妊に利用実態 (男性)

F1	世代	1回	2回	3回以上	ない	分からない	無回答	総計
男性	25歳未満	1(3.1)	1(3.1)	1(3.1)	29(90.6)			32
	25-34歳	1(2.2)	1(2.2)		42(93.3)	1(2.2)		45
	35-44歳		1(2.4)		40(95.2)	1(2.4)		42
	45歳以上			1(7.7)	11(84.6)	1(7.7)		13
男性計		2(1.5)	3(2.3)	2(1.5)	122(92.4)	3(2.3)		132

表 16-1. 世代別緊急避妊に利用実態 (女性)

F1	世代	1回	2回	3回以上	ない	分からない	無回答	総計
女性	25歳未満	7(11.1)		1(1.6)	53(84.1)	1(1.6)	1(1.6)	63
	25-34歳	7(8.9)	1(1.3)		67(84.8)	3(3.8)	1(1.3)	79
	35-44歳	2(4.7)	1(2.3)		38(88.4)	1(2.3)	1(2.3)	43
	45歳以上	1(3.8)		2(7.7)	21(80.8)	2(7.7)		26
女性計		17(8.1)	2(0.9)	3(1.4)	179(84.8)	7(3.3)	3(1.4)	211
総計		19(5.5)	5(1.5)	5(1.5)	301(87.8)	10(2.9)	3(0.9)	343

未既婚別で緊急避妊ピルの利用実態をみると、未婚男性3名(4.5%)、既婚男性4名(6.7%)であり、未婚女性9名(9.7%)、既婚女性11名(10.3%)と男女ともに後者が高いものの有意差は認めなかった。婚姻形態では、男女間に差は認められるものの婚姻形態での違いは認められなかった。

表 16-2. 婚姻形態別緊急避妊に利用実態

F1	F5	1回	2回	3回以上	ない	分からない	無回答	総計
男性	未婚	1(1.5)	1(1.5)	1(1.5)	62(93.9)	1(1.5)		66
	既婚	1(1.7)	2(3.3)	1(1.7)	55(91.7)	1(1.7)		60
女性	未婚	8(8.6)		1(1.1)	81(87.1)	2(2.2)	1(1.1)	93
	既婚	8(7.5)	1(0.9)	2(1.9)	88(83.0)	5(4.7)	2(1.9)	106

### 9. 適切と判断する避妊法について

現時点で適切と判断する避妊法について、男性は第一にあげるのはコンドームで 556 名 (87.4%)、次がピル 159 名 (25.0%)、膈外射精 112 名 (17.6%)、女性用コンドーム 75 名 (11.8%)、オギノ式 72 名 (11.3%) と続いていた。緊急避妊を考えているのが 7 名 (1.1%) にみられた。

世代別でみると、ピルは 25 歳未満 32.2% と最も高く、次いで 45 歳以上 28.2%、25-34 歳 25.3%、35-44 歳 19.7% の順であった。また、25 歳未満群では女性用コンドーム 24.3%、膈外射精の 20.9% より上回っていた。

表 17-1. 男性が適切と判断する避妊法

	25歳未満	%	25-34歳	%	35-44歳	%	45歳以上	%	総計	%
コンドーム	100	87.0	171	90.0	202	88.6	83	80.6	556	87.4
ピル	37	32.2	48	25.3	45	19.7	29	28.2	159	25.0
フィルム	5	4.3	4	2.1	4	1.8	3	2.9	16	2.5
オギノ式	17	14.8	16	8.4	26	11.4	13	12.6	72	11.3
BBT	12	10.4	17	8.9	26	11.4	7	6.8	62	9.7
膈外射精	24	20.9	35	18.4	35	15.4	18	17.5	112	17.6
女性用コンドーム	28	24.3	28	14.7	15	6.6	4	3.9	75	11.8
ベッサリー	7	6.1	8	4.2	3	1.3	4	3.9	22	3.5
緊急避妊	2	1.7	4	2.1	1	0.4		0.0	7	1.1
IUD	4	3.5	9	4.7	9	3.9	4	3.9	26	4.1
この中不在	3	2.6	1	0.5	1	0.4		0.0	5	0.8
無回答	4	3.5	3	1.6	7	3.1	6	5.8	20	3.1

女性が適切と判断する避妊法は、第一がコンドームで 625 名 (80.9%)、次いでピル 223 名 (28.8%)、基礎体温法 215 名 (27.8%)、オギノ式 121 名 (15.7%)、膈外射精 116 名 (15.0%)、IUD 78 名 (10.1%) の順であった。男女間で有意差の認められたものは、コンドーム ( $p < 0.01$ ) が男性に多く、ピルは有意差が認められず、基礎体温 ( $p < 0.001$ )、オギノ式 ( $p < 0.05$ )、IUD

( $p<0.001$ )と女性に多いことが示されていた。また、膣外射精も男女間での違いは認められなかった。

表 17-2. 女性が適切と判断する避妊法

	25歳未満	%	25-34歳	%	35-44歳	%	45歳以上	%	総計	%
コンドーム	123	83.7	196	84.1	200	78.7	106	76.3	625	80.9
ピル	56	38.1	71	30.5	65	25.6	31	22.3	223	28.8
フィルム	3	2.0	6	2.6	12	4.7	3	2.2	24	3.1
オギノ式	23	15.6	44	18.9	36	14.2	18	12.9	121	15.7
BBT	35	23.8	67	28.8	80	31.5	33	23.7	215	27.8
膣外射精	22	15.0	40	17.2	33	13.0	21	15.1	116	15.0
女性用コンドーム	33	22.4	14	6.0	14	5.5	6	4.3	67	8.7
ペッサリー	11	7.5	3	1.3	8	3.1	5	3.6	27	3.5
緊急避妊	7	4.8	1	0.4	2	0.8	2	1.4	12	1.6
IUD	11	7.5	15	6.4	30	11.8	22	15.8	78	10.1
この中不在		0.0	3	1.3	1	0.4		0.0	4	0.5
無回答	6	4.1	9	3.9	14	5.5	4	2.9	33	4.3

未既婚別で避妊法の捉え方として違いがみられたのは、男性ではピルと女性用コンドームが未婚者に高く有意差( $p<0.01$ ,  $p<0.001$ )を認めた。女性ではピル、基礎体温法、オギノ式、膣外射精、女性用コンドームなどが未婚者に高値で有意差( $p<0.001$ ,  $p<0.001$ ,  $p<0.01$ ,  $p<0.05$ ,  $p<0.001$ )を認めた。

表 17-3. 婚姻形態別適切と判断する避妊法

	男性 (除: 離婚)				女性 (除: 離婚)			
	未婚	%	既婚	%	未婚	%	既婚	%
コンドーム	228	86.4	307	88.7	223	84.5	358	79.7
ピル	84	31.8	71	20.5	102	38.6	71	15.8
フィルム	10	3.8	6	1.7	6	2.3	6	1.3
オギノ式	35	13.3	35	10.1	48	18.2	44	9.8
BBT	29	11.0	30	8.7	77	29.2	67	14.9
膣外射精	45	17.0	60	17.3	38	14.4	40	8.9
女性用コンドーム	52	19.7	21	6.1	38	14.4	14	3.1
ペッサリー	13	4.9	8	2.3	9	3.4	3	0.7
緊急避妊	6	2.3	1	0.3	8	3.0	1	0.2
IUD	10	3.8	16	4.6	14	5.3	15	3.3
この中不在	5	1.9	0	0.0	2	0.8	3	0.7
無回答	9	3.4	9	2.6	12	4.5	9	2.0

適切と判断する避妊法について、男性は「コンドーム」「ピル」「膣外射精法」と選択肢の狭さが伺われ、女性では「コンドーム」「ピル」「膣外射精法」に加え「基礎体温法」「オギノ式」「IUD」「緊急避妊法」と選択肢の広がりを見せしており、特に、若い世代に、避妊法の選択肢の広がりも顕著であった。

## 性意識に関する小括

### 1. 異性とのかかわり

この設問は、現時点のみではなく過去の事象も含め全体的印象で捉え回答されている印象が窺える。それによると男女ともに「一緒の時間・人生を生きるものとしての関係」と「ひとりにしぼられた特定の相手との関係」と考えるものが多く、男性 40%、35%、女性は 40%、36%であったが、未婚者と既婚者を比べると「ひとりにしぼられた特定の相手との関係」がやや多かった。ここには特定されたパートナーが存在しているという現実が既婚者に現れていたと考える。

### 2. 性情報（避妊法の情報について）

この設問では性教育のあり方を示すものとするが、男女ともに「教師・学校の授業」が最も高く、次に、友人が多く、この友人は高齢になるほど高く、エイズ問題からの性教育のあり方の変化が窺える。

### 3. 中学生のセックスについて

中学生がセックスをすることに対して「妊娠や性感染症について自分で責任の取れる年齢や立場になってからすべき」と考えるものが男性で 58%、女性 67%と過半数以上を占めていたが、若い世代では「セックスをするかしないかは、中学生であっても個人の自由である」が多く、特に男性が高値を占めていた。また、「妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しない方が良い」とするものは高齢者に多く全体として 15・16%程度であった。

### 4. セックスに対する関心度

セックスへの関心度は、男性 85%に対し女性は 70%で男性のほうが高く有意差 ( $p<0.001$ )を認めた。逆に、女性は「全く関心がない」が 4%と男性 0.3%に比べ有意差 ( $p<0.001$ )を認めた。嫌悪さえしているという「性嫌悪症」は男性 0.3%、女性 0.4%とほぼ同じ値であった。未婚女性は既婚者に比べ「全く関心がない」が高値で有意差 ( $p<0.001$ )を認め、「あまり関心がない」が既婚女性のほうが有意 ( $p<0.05$ )に高値を示していた。

セックスへの関心度は、女性は男性に比べ関心度が低く、未婚女性より既婚者のほうがより低かった。性成熟期（25・34 歳）である男性が関心を示さないのが 10%に対し女性は 32%、性成熟期後半（35・44 歳）男性 10%、女性 44%という大きな乖離はわが国の抱えている少子化問題に大きな鍵が示されているように思われた。